

本市初の土木遺産に

京成成田駅から成田山新勝寺総門前に至る市道で、電車道の名で市民に親しまれて
いる新葉石門前線にある、約100年前に造られた2本のれんが造りのトンネルが、
本市では初となる土木遺産に認定されました。



現在の成宗電車第二トンネル



成田幼稚園下を通る
成宗電車

土木遺産とは

公益社団法人・土木学会が、歴史的価値があると認定した土木構造物です。認定制度は、技術的・デザインの優れた構造物、由来やエピソードが豊富な構造物の保存を促進する目的で、平成12年に創設されました。平成26年度は全国で22カ所が認定されました。土木遺産に認定されると、その構造物の知名度・文化的価値の向上、貴重な歴史的構造物として保護することへの地域住民の意識向上などの効果が見込まれます。

市内初の認定

本市からは、電車道にある2本のトンネル「成宗電車第一、第二トンネル」が、土木遺産に認定されました。

成宗電車第一、第二トンネルは、明治43(1910)年に建設されたれんが造りの鉄道トンネルです。形態的にほぼ同一な2本のトンネルが連続している姿は珍しく、趣が感じられるという理由で認定されました。

電車道とトンネルの歴史

トンネルが位置する道はかつて、千葉県で最初の電車「成宗電車」の軌道でした。成宗電車は明治43年に開通し、成田駅前と成田山新勝寺・宗吾霊堂をそれぞれ結んで運行していましたが、昭和19(1944)年に廃止。軌道敷をそのまま道路に転用したため、「電車道」の愛称で親しまれています。

当初、成宗電車の軌道は参道に敷かれる予定でしたが、地元住民の意向などを踏まえ、計画が変更されました。その結果、参道を迂回して門前に至るルートに変更され、軌道を敷くためのトンネルが掘削されました。

かつての軌道敷は市道になりましたが、2本のトンネルは約100年前の建設当時の原形をとどめたまま残り、当時の面影を色濃く残しています。

※くわしくは道路管理課(☎20・1551)へ。

